

# 千里地理通信

関西大学地理学・地域環境学教室会報 第88号

Newsletter of Department of Geography and Regional Environment, Kansai University

## Contents

Page 1 ……

### 巻頭随想

ベトナムに恋して  
25年

野間晴雄

Page 2 ……

### 同窓会通信

卒業生だより

地理学専修と部活動

林 万葉

同窓会事務局ニュース

Page 3 ……

2023年度教室行事予定  
大学院生の研究業績

Page 4-5 ……

### 研究ノート

買い物弱者の支援  
手段としてのイン  
ターネット通販の  
可能性

何 雪瑩

Page 6 ……

### 学窓から

モンゴルで学んだ  
自然地理学・関西  
大学で学んだ地理  
学

ガルスンドルジ

ブルブドルジ

Page 7 ……

### 日帰り巡検報告

伏見・淀・石清水  
八幡

前谷駿輔

Page 8 ……

### 実習調査報告

鳥根県出雲市での  
実習調査

吉岡加帆

Page 9 ……

### 教室だより

Page 10 ……

### 随想

地質地盤情報(ボー  
リングデータ)の  
活用と法整備

栗本史雄

Page 6-9 ……

2022年度卒業生・  
修了生からのひと  
こと

## ベトナムに恋して25年

—ひとづくりの学術交流—

野間 晴雄

ベトナム地理学会2022年大会がハノイ直轄市ソントイ町で11月25～27日に開催された。私は、この会場で、ベトナム国家大学ハノイ校から、長年の日越学術交流に対しての功労勲章の荣誉に浴した。何よりも嬉しい受賞であった。

私のベトナムの大学との関わりは四半世紀前に遡る。JICAのバングラデシュ農村開発プロジェクトが1996年1月に終わり、1年半ぶりに奈良女子大学に復職した。次はバングラとならぶ超稠密稲作社会の紅河デルタを取り上げたいという強い思いがあった。翌年1月の卒業論文に、旧満州引揚げ者による岩手県八幡平での戦後開拓地の形成と変容を扱った論考にびびってきた。中国共産党の集団農場をモデルに、土地・資材の共有、協業を行う極めて特異な一開拓農場変容の精緻な分析である。彼女の大学院進学を機にベトナム研究に誘い込んだ。それが現在は追手門学院大学に勤める筒井由起乃さんである。

ベトナムはまったくの素人であった私は、奈良女子大学とハノイ理科大学の交流締結書のコピーを手に、体当たりでカウンターパート探しをした。さまざまな学部・研究機関関係者と面談や会食を重ね、修士1年の女子学生の農村調査を受け入れてくれる相手を探し回った。結果、口八丁手八丁で便宜を図るとアピールする環境研究機関をさしおき、ソ連流地理学がまだ幅をきかせていた地理学部を選んだ。交渉の中心にいたのは、朴訥だが誠実で人情家のファン氏である。私より1歳上で、現在もベトナム地理学会会長の要職にある。彼との出逢いがその後の私のベトナムとの交流に決定的な意味をもった。はでな動きはしないが人望が厚く、教室や学界をいかに国際化すべきかを常に考えていた。彼自身キエフ大学に留学し、東ドイツ流の景観生態学を学んだことにも親近感を覚えた。この手法とGISを結びつけた省の地域計画の委託で、教室が大忙しの時期でもあった。ただ、地域にどっぷりつかった村落社会の人文地理学は初めて接する領域だった。私とその手法や学史を滾々と説明し、いかに現代ベトナム農村の発展に結びつけるか熱く語りあった。

大学院生には助手をカウンターパートにつけてくれた。それがトゥアン氏である。ふたりは1974年の寅歳生まれ、裡に強い熱情を秘めた人たらしの酒客である。ファン氏の故郷に近いハイズオン省のゴークエン社にフィールドが決定した。なかなか実体を持ち得ないバングラの行政村と実体村落のリンクの経験からは、紅河デルタ農村の社(行政村)はオフィスがりっぱで、若さに満ち溢れていたことは驚きであった。その長は灰緑色の戦闘帽をかぶってバイクで出勤、建国の父ホーチミンの胸像が置かれた会議室で日中は肅々と執務、自宅に帰れば、居候している私や大学院生、トゥアン氏と夜の酒盛りと朝

の寝起酒という毎日が続いた。旭硝子の研究助成を受け、2001年9月に社の会議場で村民や人民委員会の要人・大学研究者を集めて開催した実施したワークショップは生涯忘れることが出来ない。この4名が中心になって日本語での紹介は『月刊地理』に「紅河デルタ・地理学ベースの農村開発」として2001～02年に5回に分けて連載した。生粋のむら生まれの社長にも寄稿してもらった。

そのトゥアン氏が今度は第1回の若手公務員研修という形で、ベトナム国費で関西大学へ来ることになった(2002年度)。尚文館7階の院生室で、3年間、髪の毛が白くなるまで、タイピン省の潮汐デルタ開発の学位論文に国を背負って取り組んだ。彼はいまベトナム教育省で高等教育・国際学術交流を一手に推進する次官級の要職にある。その激務のなか、恩師のファン氏との久しぶりの酒席で私の勲章の話がもちあがったという。その仲介と推薦書清書の労をとってくれたのが、トゥアン氏に続いて関西大学に留学、フエの歴史地理で学位論文を書いたハータインさんである。筒井さんの学生アシスタントでもあった。いまは母校で人文地理学を担う中堅教員として多忙な日々を送っている。彼女の留学が内定したのは、ハノイ近郊の彼女の生家のむらの犬料理店だった。父はファン氏と大学で同学年、地理学部の同僚教員でもあった。郷紳といわれる旧ブルジョワ階層出身のため、昇進や留学は叶わなかったが、人徳と学問の幅広さで尊敬されていた。彼も一度来日して国際日本文化研究センターで発表、故・高橋誠一先生とは沖縄を巡った。

幾重にも絡み合った人間関係のしがらみと長幼の序を受け入れなければ生きていけないベトナム。業績偏重、合理主義の真逆ではあるが、持続的な国際交流や教室運営ではこれが鍵となる。地域との出逢いで、人を見る眼を肥すことができた私はつくづく果報者である。関西大学の専修教員どうしの暖かい信頼関係の持続力も大きかった。

2017年からフィールドワーク研修として両教室の学生や教員の交流が始まった。この3年コロナ禍で中断を余儀なくされたが、今年2月に黒木・松井先生と行った引率では、LINEでつながり写真や行動を共有する17人の日本人学生と4人のベトナム人学生の姿がまことに印象的だった。確実に時代は変わったことを実感する。

かつて2人の大学院生が、ハノイ大学の地理教室の先生の指導やベトナム人学生の協力で、修士論文、博士論文を完成した。ハータインさんがこの6月から3か月間、客員研究員として関西大学東西学術研究所に来る。昨年の訪越時に、私はトゥアン氏からiPhone12 Pro512Gという高スペックのスマホをプレゼントされた。それを首に提げての今回の再訪。「猫に小判」とならぬよう、新しいかたちの交流を今後も続けていって欲しいというメッセージとして受け止め、定年後の第1楽章に入っていきたい。

(のま はるお: 本学特別契約教授)

## 地理学専修と部活動

林 万葉

私は海津市役所産業経済部農林振興課に所属しております。そこでは、農業、とりわけ、農地中間管理に関する業務や免税軽油に関する仕事をしています。特に農地中間管理事業に関しては、どの土地が預けられたのかを知る必要があるため、GISを使用して、市内でどの程度、土地の集約が行われているかを計量的に調査しています。私にとっては、地理学と密接に関係した内容でたいへん興味深い仕事です。中間管理事業は市役所内で完結するものではなく、岐阜県農畜産公社や農地中間管理者とのやりとりを通じての業務です。また、免税軽油に関する業務は、米作農家が使用する軽油にかかる税金（軽油引取税）の免税証の発行を、岐阜県税事務所とやり取りをしながら行っています。

私は大学時代のほとんどを大学航空部での活動に明け暮れていました。このクラブの中心はライダーの飛行訓練活動です。飛行訓練や合宿にかかる費用は学生にとっては非常に高く、その費用捻出のためにアルバイトを3つほど掛け持ちしていました。地理学実習もあったので、非常に忙しい日々を送っておりました。忙しすぎたためか、卒業論文のテーマは迷いに迷いました。迷った結果、最終的にはせっかく部活動を頑張ったのだから、地理とつなげることはできないだろうかと考え、「大学航空部の実態と滑空機飛行に最適な空間—大野滑空場、八尾空港を事例に一」というテーマで執筆しました。テーマがなかなか決まらなかったため、現地調査は非常に忙しかつたのですが、岐阜県大野町の職員の方々、航空部OBにライダーと地域の関わりに関して聞くのは新鮮でとてもいい経験ができたと感じております。

私は、関西大学文学部地理学専修・地域環境学専修を卒業後、アルバイト先がスーパーであったことから、地域密着型の販売職がしたいという思いがありました。それで、関西を拠点に店舗展開する某スーパーマーケットチェーン会社に就職いたしました。担当はスーパーの惣業部門でした。ただ、社会に出て大学での学びを活かし、かつ、ライダーの活動も続けたいという思いも頭の片隅にありました。会社では販売について学ぶことが

中心で、いまひとつ地理学の知識を活かしきれていないと感じておりました。そこで地域に関わりながら地理学を活かすことができそうな場として、市役所での勤務を目指すことにしました。

市役所を選ぶ際に、大阪府内の市役所も受けたのですが、ライダーの活動を今後も続けたいと思っていました。卒業論文でライダーと地域の関わりをとりあげたため、ライダーによる地域のPR活動や住民のライダーに関する意識などを参考にして、岐阜県海津市役所を受験して幸運にも採用されました。海津市は西濃輪中の核心地で、木曾川と長良川の背割堤にある1500mの木曾川滑空場は日本学生航空連盟の東海・関西地区の訓練拠点です。「全日本学生ライダー新人競技大会」（新人戦）で全国の学生が集う「ライダーの聖地」です。

揖斐川左岸の河川敷にある大野町にもライダー滑空場があり、ライダーのふるさと納税や、大野町後援の大会も開催されています。しかし、海津市では、ライダーが飛行していることに関して知っている住民は非常に少なく、市長も最近までよくご存じではありませんでした。

昨年の9月、大学航空部の全国規模の新人戦が開催され、閉会式に市長とともに参加しました。閉会式前には、市長室で市長とライダーについてお話しする機会がありました。私の業務では、ふだんは市長室にはまず入る機会がないので、非常に印象に残る仕事でした。

私は、入庁してからはずっと農業に関する業務でしたので、閉会式に参加するまでの打ち合わせや閉会式典の参加は今まででいちばんやりがいを感じた仕事でした。市長は全国から大学生が多く集まっていることに非常に驚いておられました。市では若い人の転出が進んでいるので、若い人を集めるための政策を推進しています。ライダーに関しては盲点だったとの思いが市長にはありました。これを受けて、私は、将来、海津市の地域の住民の方々を知る機会を増やす活動やライダーを通じた市のPRをしたいと考えております。

（はやし かずは：岐阜県海津市役所、2021年3月卒業）

### ・〈同窓会事務局ニュース〉

- 2013年の卒業生に対して、事務局から郵送による消息調査をおこない、4名の方から返信がありました。
- 令和3年度の会計報告について、令和2年度からの繰越金が間違っておりました。誠に申し訳ありませんでした。お詫び申し上げますとともに、改めて令和3年度の会計報告を次頁に掲載いたします。
- 次の方々からご寄付をいただきました。大倉俊、吉兼崇博（50音順、敬称略）
- 2022年度より卒業時に同窓会幹事を決め、数年後に同窓会記事の寄稿をお願いすることといたしました。
- 関大地理同窓会の新規約について準備を進めています。次号に規約案を掲載し、12月の総会で審議となる予定です。
- 2023年度に関西大学で開催される日本地理学会の秋期学術大会（2023年9月16～19日）に旧地理学研究会を母体とする千里地理学会が協賛する予定です。
- 同窓会通信の執筆者を募集しております。1ページ1600～1800字、半ページ約800字です。執筆いただける方は教室メールアドレス[kandaichiri@gmail.com]までご連絡ください。また、会費の納入状況などのお問い合わせも上記メールアドレスをお願いいたします。

（松井幸一）



## 関大地理同窓会令和4年度会計報告

(収入)	(円)
一般会費 (4名)	17,000
新入生会費 (27名)	27,000
3年生会費 (10名)	10,000
卒業生会費 (17名)	34,000
寄付金 (2名)	105,000
計	193,000
(支出)	(円)
千里地理第87号印刷代	32,780
千里地理第87号発送代	8,366
往復はがき代	3,276
雑費	2,217
郵券代	4,700
計	51,339
(収支残高)	(円)
前年度繰越金	268,510
収入 - 支出	141,661
計	410,171

## 千里地理および同窓会令和3年度会計報告

(収入)	(円)
一般会費 (4名)	13,000
新入生会費 (3名)	3,000
寄付金 (2名+教室より)	95,536
計	111,536
(支出)	(円)
千里地理第84号郵便発送代	15,700
千里地理第85・86号印刷代	80,536
千里地理第85号郵便発送代	15,660
千里地理第86号郵便発送代	9,588
はがき書き損じ交換	10
雑費	7,418
アルバイト謝礼	8,000
計	136,912
(収支残高)	(円)
前年度繰越金	293,886
収入 - 支出	-25,376
計	268,510

## 2023年度教室行事予定 (2023年4月～2024年3月)

- 4月6日(木) 専修全体オリエンテーション A601教室 12:15～13:00  
 5月13日(土)～14(日) 一泊バス巡検 淡路島 黒木・松井担当  
 7月9日(日) 大学院M・D入試(秋学期入学), 春学期大学院M学内進学試験  
 7月15日(土) 大学院合同演習(梅田キャンパス)  
**9月16日(土)～19日(火) 日本地理学会秋季大会・公開講演会(千里山キャンパス)**  
 9月19日(火) 春学期卒業式・修了式, 秋学期入学式  
 9月28日(木) 卒業論文中間発表会  
 10月1日(日) 日帰り巡検(岸和田・貝塚市) 卒業生も参加可能, 野間・土屋担当  
 10月3日(火)～7日(土) 地理学実習調査(熊本市) 黒木・松井担当  
 10月8日(日) 大学院M・D入試, 大学院M学内進学試験  
 12月2日(土) 関西大学史学・地理学会大会(関西大学) 卒業生も参加可能  
 12月9日(土) 第5回千里地理学会大会(関西大学) 卒業生も参加可能  
 2月24日(土) 大学院M・D入試, 大学院M学内進学試験  
**3月2日(土) 野間晴雄先生退職記念講演・パーティー(大阪ガーデンパレス) 卒業生も参加可能**  
 3月19日(火) 卒業式  
 3月21日(木) 学位授与式
- \*ほかにベトナムフィールドワーク研修(希望者, 大学から補助あり)を3月に予定  
 \*9月の日本地理学会では多くの専修学生のアルバイトをお願いすることになります。

## 大学院生の研究業績 (2022年4月～2023年3月)

## 【論文・書評・書籍等】

- 潘 多 「(書評) 海津正倫著『沖積低地—土地条件と自然災害リスク—』史泉, 第136号, 1-5頁, 2022年5月  
 張 銘珊 「(書評) 佐藤健二著『文化資源学講義』史泉, 第136号, 26-32頁, 2022年5月  
 高田 協平 「段丘・丘陵の盛土地で発生した液状化の土地条件—宮城県仙台市に着目して—」史泉, 第137号, 1-12頁, 2023年1月  
 楊 琺屹 「(書評) 陳碧霞著『近世琉球の風水と集落景観』史泉, 第137号, 13-19頁, 2023年1月

## 【学会・研究会発表】

- 潘 多 「木津川流域における天井川の発達過程から見た自然災害の特徴」2022年度関西大学史学・地理学大会(口頭発表), 2022年12月3日  
 楊 琺屹 「今帰仁村謝名における伝統的な集落景観の構造理念」2022年度関西大学史学・地理学大会(口頭発表), 2022年12月3日  
 張 然 「長野県木曾開田高原における馬と人間の共生—在来農業と集落・家屋構成の視点—」2022年度関西大学史学・地理学大会(口頭発表), 2022年12月3日  
 張 銘珊 「私鉄沿線における文化資源の発掘とその活用—近鉄奈良線と南海高野線の寺社参詣・観光の比較—」2022年度関西大学史学・地理学大会(口頭発表), 2022年12月3日

## 買い物弱者の支援手段としてのインターネット通販の可能性 —大野城市を事例に—

何 雪瑩

### 1. はじめに

近年、日本では高齢化や単身世帯の増加、地元小売業の廃業、商店街の衰退等により、高齢者等を中心に食料品の購入や飲食に不便や苦勞を感じる人々が増えてきており、「食料品アクセス問題」として社会的な課題になっている。

本研究では、日本国内において買い物弱者問題の深刻化とネット通販の急成長の背景を踏まえて、買い物支援手段としてのネット通販の可能性を解明するために、福岡県大野城市を事例として、当該地域の買い物弱者支援の現状と課題について分析・考察を行った。

### 2. 支援策としての通信販売

ネットスーパーは2000年代から日本で本格的に事業化された。共働き世帯や高齢者世帯の需要が狙えることから急速に展開し、主婦や高齢者の間で支持を広げた。現在まで、ネットスーパー事業者側はパソコン操作が困難な高齢者に配慮して、タッチパネル式端末などの多機能携帯端末を開発している。

2020年より拡大した新型コロナウイルス感染症によって、日本政府が国民に対して外出自粛の呼びかけ、通信販売の利用が推奨された結果、在宅勤務の増加、内食需要の拡大し、外に出られない状況のなかで、買い物手段としてのネット通販を利用する人々が増えた。この状況下で、買い物弱者を支援する仕組みとして、政府も自治体もネット通販を普及させようとしており、ネット通販をはじめとした通信販売は買い物弱者の支援手段としても注目されるようになった。池田(2021)によると、ネットスーパーで2021年4～5月の利用件数を年代別で調べると(表1)、70代は前年比210%と2倍以上に利用が膨らむなど、高齢層ほど活発に利用していることがわかる。

高齢者の情報リテラシーが向上していくと、買い物弱者の支援手段として可能性が高まることが期待されている。その一方で、ネット通販自体の効率化や、高齢者へのきめ細やかなサービスの必要性など、更なるさらなる

普及には、多くの課題があることが明らかになってきている。

### 3. 大野城市における買い物支援

本研究では福岡県大野城市を対象地域として選定し、統計データと地図を用い、大野城市の高齢化状況と買い物環境について地域別に分析を行った。

大野城市は福岡市の南に位置し、東に四王寺山、南部に牛頸山があり、市の中心部は平坦地が約50%を占める。2021年1月1日における大野城市の総人口は101,950人、高齢化率は21.3%で、15歳～64歳までの生産年齢人口は61%を占め、高齢者と生産年齢人口の比率は、1対3.0となっている。

大野城市には北・中央・東・南の4つの地区コミュニティがあり、地形や交通アクセスなどで地区差が大きい。図1によると、中央地区と北地区は西日本鉄道天神大牟田線とJR鹿児島本線の沿線で、買い物環境を良くしている。南地区はもともと丘陵地を開発して、高齢化が進んでいる地域である。他の3つの地区と比べて、買い物環境が悪く、移動の困難化と小売店との間の距離の遠隔化問題があり、買い物弱者が発生するリスクが高いと判明した。そこで、大野城市の買い物支援事業は南地区を中心に展開されている。

「ふれあい号」、「ふれあい市場」、「ごきげんお届け便」の3つの買い物支援事業の実施状況と課題を把握するため、NPO法人共働のまち大野城事業部の方にヒアリングを行った。「ごきげんお届け便」は大野城市、イオン大野城店、大野城市パートナーシップ活動支援センターの3者による共働事業である。市がネットスーパーの商品のカタログを作り配布、NPO法人共働のまち大野城が運営するパートナーシップ活動支援センターのスタッフが注文代行を担当して、イオンが宅配を担当する。注文は700円(税抜き)から、指定日・時間帯に商品をお届け、商品到着時、現金で支払う。配達料は330円で、注文金額3,000円(税込)以上で無料となる。ヒアリング調査によって、3つの支援事業が共通して抱えているのは、外に出られなく、情報を得ることが難しい高齢者に支援事業を知ってもらう誘致の課題である。

それ以外に、「ごきげんお届け便」は主に次の3つの課題がある。①80代の登録者は最も多くて高齢者との意思疎通の課題が存在している。②イオン側は配送コストの上昇から送料の値上げを考えている。③悪天候で配送が遅れる場合がある。

NPO法人共働のまち大野城によると、現在、体が不

表1 利用者年代別 ネットスーパーの利用件数 前年同期比(%)

	2020年4～5月	2020年6～7月	2020年8～9月
30歳代	133.6	128.4	117.1
40歳代	129.8	133.3	116.6
50歳代	169.3	144.3	136.8
60歳代	192.4	183.1	158.8
70歳以上	209.7	205.3	195.7

資料：池田満寿次(2021)。

原資料の研究協力先のネットスーパー(首都圏)実績より、池田算出

自由などの理由での外出困難者に宣伝誘致を工夫している。今後、「ごきげんお届け便」の高齢利用者の健康状態、認知状況を観察できる施設の導入を検討し、利用者が増えている健康状況に対応しやすくなるようである。

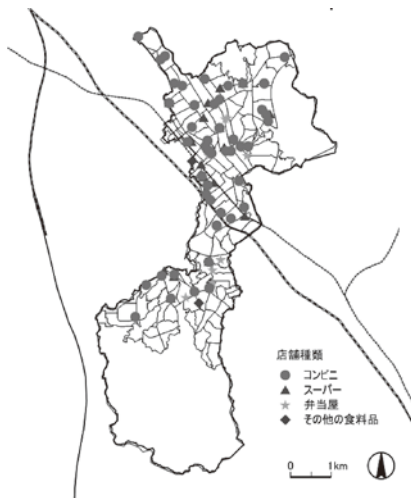


図1 大野城市の食料品店分布図  
(資料：Google Map データより作成)

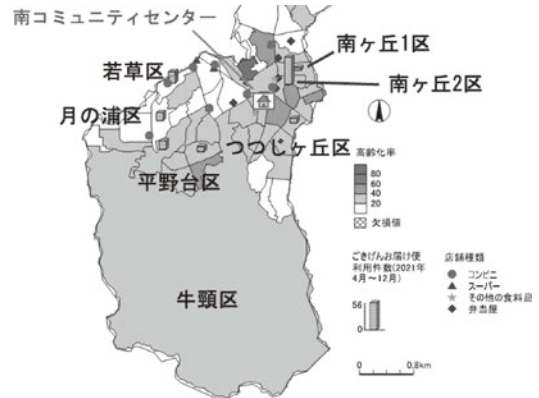


図2 大野城市南地区の高齢化率と買い物環境と「ごきげんお届け便」の注文件数

(資料：国勢調査(2015), Google Map データと大野城市南コミュニティセンターの資料より作成)

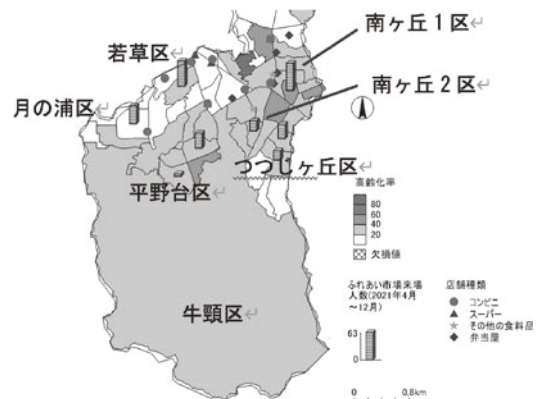


図3 大野城市南地区の高齢化率と買い物環境とふれあい市場の来場人数

(資料：国勢調査(2015), Google Map データと大野城市南コミュニティセンターの資料より作成)

#### 4. 大野城市における買い物利用

NPO 法人共働のまち大野城のデータによって、コロナ前の2019年4月から2020年3月まで「ごきげんお届け便」の注文件数は419件、2020年コロナ以降の利用件数が512件に大幅に増加したことが明らかになった。

4つの地区に分けて見ると、南地区と中央地区の注文件数と利用者数が最も多い。南地区において、2021年4月から12月までの「ごきげんお届け便」利用データによると、南ヶ丘2区は他の地区を大きく上回る注文件数がある(図2)。南ヶ丘2区の高齢化率がおよそ20%~40%で、南コミュニティセンターに近く、イベント開催などによって地域コミュニティがしっかりしているため、浸透効果が他の地区より良いと考えられる。一方、牛頸山に近いつつじヶ丘区と平野台区は高齢化率が高く、買い物環境が悪いが、注文件数は相対的に少ない。これらの地域でごきげんお届け便の浸透効果が低いことが分かった。

買い物代行のふれあい市場の利用状況では、2つの支援事業とも利用数が多いエリアは南ヶ丘区と若草区である(図3)。また、2つの支援事業の利用状況を比較すると、異なる地域間に利用数の差がある。南ヶ丘2区の「ごきげんお届け便」の利用件数が最も多く61件があるが、南ヶ丘1区の利用件数が6件と最も少ない。一方、坂道が多くて買い物先が少ないつつじヶ丘区と平野台区の利用数は少なく、支援事業の浸透効果が低いという結果が明らかになった。「ごきげんお届け便」の利用は、高齢化率、移動の利便性、買い物環境、コミュニティの質と関連しているが、高齢化率が高い地域または買い物環境が悪い地域での利用件数が必ず多いわけではない。遠くまで移動が困難を感じて、地域活動やイベントなど

を積極的に参加する高齢者は「ごきげんお届け便」を多く利用している。

次に「ごきげんお届け便」の利用状況から、今後の事業推進に当たっての課題を述べたい。身体の不自由による外出困難者は情報の取得が難しく、高齢者を対象とした「ごきげんお届け便」の推進は、浸透・支援効果を上げるために地域密着型サービスと連携する必要がある。買い物環境が悪いつつじヶ丘区、平野台区、牛頸区、月の浦区には買い物弱者問題の発生リスクが高いが、「ごきげんお届け便」の浸透効果が低い。そのため、地域コミュニティを強化する視点を持ち、地域のつながりに努めて「ごきげんお届け便」などの支援事業を推進すべきである。また、住民のニーズが異なるので、買い物支援を行う際には、高齢者及び地域住民の特性とニーズに合わせて、多様な支援事業を取り組むことが大切である。

[付記] 本稿は2022年7月に提出した同名の修士論文の一部である。

#### 文献

池田満寿次(2016):「コロナ下で飛躍的に伸長するネットスーパー」『流通情報』, no.548, pp.34-39.

(か せつえい: 2022年9月本学文学研究科・博士課程前期課程修了)



〈学部生〉

田中息吹

地理学専修を通して自分の知見が大きく広がりました。本専修で得た学びは一生ものになると考えています。地理学に入って本当に良かったです。地理学大好き！

佐藤綜一郎

地理学専修のカリキュラムを通じて他にはない様々な体験ができ、大変貴重な学識を得ることができました。卒業後もこの体験を生かし積極的に活動していきたいと思っています。ありがとうございます。

浅野祐斗

コロナ禍で思うような活動ができなかったが、充実した大学生活を送ることができました。地理学専修に所属して本当に良かったと思っています。3年間ありがとうございます。我が関西大学地理学教室は永久に不滅です！

新井ひな

巡検などで様々な地域を知ることができとても楽しかったです！

石山 翼

地理が好きでこの専修を選びましたが、地理を学べば学ぼうど何気ない景色を多面的に見られるようになったと感じます。とても有意義な4年間をありがとうございました。

宇都宮陸

地理学教室で様々な体験をさせていただき、充実した大学生活を送ることが出来ました。地理学の視点を卒業後も活かしていきたいと思っています。ありがとうございました。

岡田ゆり

大学に入ってから地理学を学び始めましたが、巡検を通して様々な地域に行くことができ、とても楽しかったです。ありがとうございます。

四木愛実

地理学に進んで、街を少し違った観点で見られるようになりました。皆と巡検、実習報告書作成、論文執筆などを通して楽しさも苦労も分かち合った経験は財産です。ありがとうございます。

■ □学窓から □ ■

モンゴルで学んだ自然地理学・関西大学で学んだ地理学

ガルサンドルジ プルブドルジ

私は1994年にモンゴルのホブド県に生まれました。ホブド県は、モンゴルの西部に位置し、首都ウランバートル市から西へ約1500km、標高1,400mの高原にある。アルタイ山脈の北西麓に位置する県都の名前もホブドである。1760年代に清国によって建設されたホブド砦城があり、主要交通路沿いにある少数民族と共存する歴史都市である。私は高校卒業までホブド県で暮らした後、2012年にウランバートル市にあるモンゴル公立教育大学に入学して地理学を専攻した。私はモンゴル特有の雄大な自然に親しんできたので、小さな頃から自然地理が好きであった。2016年に大学を卒業した後、日本に留学することとした。2017年10月からは大阪市にある大原簿記法律専門学校・難波校に入学し、2年ほど日本語を学んだ。

そして、2020年4月には関西大学大学院文学研究科・地理学専修の人文地理学の3年コースに入学した。論文の指導教員は着任間もない土屋純先生である。モンゴルで地理学を学んだ留学生の私にとって、関西大学地理学教室では毎日が新たな体験の連続だった。この3年間は、地理学教室の諸先生をはじめとする皆様には大変お世話になった。

2012年から2016年の4年間、モンゴル公立教育大学では、主に自然地理学を学んだ。モンゴル国は、世界17位の国土面積を有しており、人口密度は世界で最も少ない2人である。なお総人口は約330万人にすぎない。モンゴルは国土が広大で人口数が少ないことから、モンゴルの地理学は自然地理学が中心となっている。モンゴルの大学在学時には、ESRI社のArcGIS、ENVI4.7を用いて様々な自然地理に関する主題図を作成して卒業論文を執筆した。この経験は

関西大学での修士論文を書く際に役に立った。

関西大学の地理学教室では、人文地理学をはじめとして体系的に地理学を学ぶことができた。地理学にまつわるスキルとしては、QGIS、Googleの諸アプリやIllustratorを習得することができた。また、諸先生・学部生の皆さんと一緒に日帰り巡検に出かけたことは、今ではいちばんの楽しい思い出となっている。

修士論文のテーマは「モンゴル・ウランバートルにおける急激な都市化とゲル地区への水供給の問題点」であり、日本人研究者によるウランバートルの都市化研究を参考にしながら、水問題に焦点を定めて研究することができた。このように、関西大学地理学教室では、私の地理学の見方を広く、そして深くすることができたと考えている。

関西大学の学生として所属する機会を得たことによって、大阪での生活の中でいろいろ体験することもできた。関西大学の入学時には、私の日本語レベルは決して高くなかった。日本語をより実践的に高めていくために、学習やアルバイトの合間を見て、さまざまなボランティアに参加するようにした。これまで、大阪国際交流センター(OGSA)、大阪府国際交流財団(OFIX)、大阪観光局でのボランティアに参加した。大阪府国際交流財団では、留学生の外国人サポーターとして、府内の小・中・高等学校等が行う国際理解教育授業に派遣された。ここでは、生徒さんたちにゲームを楽しんでもらいながら、モンゴルの文化や歴史を紹介した。こうした体験も今後活かすことができると考えている。

(GALSANDORJ Purevdorj: 博士課程前期課程2023年3月修了)



OGSAN (Osaka Global Student Ambassador Network: 留学生支援コンソーシアム大阪)

2023年1月29日 2025年大阪万国博を盛り上げるためのワークショップ  
於 ATC プラザ (<https://studyinosaka.com/news/?p=2818%20/>)

## ■ □ 日帰り巡検報告 □ ■

伏見・淀・石清水八幡  
—三川合流地域の自然と交通・歴史景観—

前谷 駿輔

2022年10月2日に「伏見・淀・石清水八幡—三川合流地域の自然と交通・歴史景観—」をテーマとした日帰り巡検が実施された。今回の巡検では2回生が中心となり案内をして、それに加え先生方による解説補足が行われた。

京阪墨染駅に集合したのち、京都疏水・墨染発電所、撞木町を通り、近鉄伏見駅に向かった。京都疏水は、琵琶湖の湖水を京都へ引くことを目的とした明治期に建設された水路のことである。墨染発電所は、その疏水を利用した水力発電所の一つであり、疏水と濠川の落差を利用した水路式発電所である。実際に、発電所の近くでは5mから10mくらいの高低差があった。疏水は水道水の運搬や水力発電に利用されるほか、観光船を運航するなど観光資源ともなっている。また、撞木町は公認の遊郭として江戸時代中頃まで繁栄した町である。豊臣秀吉が伏見城を築城した16世紀末に遊郭設置の出願が許可されたことに遡る。町の入り口に石碑が建てられており、現在は住宅地のようにになっているが古い家が多く、歴史を感じた。

次に、近鉄伏見駅から1駅だけ乗車し、近鉄桃山御陵前で下車して御香宮神社を見学した。御香宮は、日本第一安産守護之神として知られる神功皇后を主祀神として祀る。そのため、安産祈願のために参拝する人が多く、見学に行った際にも多くの人が出た。また、七五三詣の家族連れも多かった。

ここで、一度解散となり自由時間となった。昼食は、大手筋商店街で食べた。高架下にも店があったが、商店街の部分が外れると駐車場になっていることが多かった。集合場所が月桂冠大倉記念館であったため、自由時間に記念館の見学をした。記念館では、酒造工程の説明とともに、月桂冠創業当時の貴重な資料を見学できた。見学後には醸造された様々な日本酒の

試飲ができた。その後、中書島を通り、三栖閘門へ向かった。この閘門は、宇治川と濠川の合流点にある。淀川改修事業で船が通行できなくなった一方で、日中戦争による軍用の舟運機能の向上が求められたために建設された。現在は、陸上輸送の発達や宇治川の河川改修・ダム建設により役目を終えている。近くにある三栖閘門資料館では、閘門がどのように動くか説明があった。

その後、京阪中書島駅から乗車し、京阪淀駅まで移動し、京都競馬場、淀城跡を見学した。それ以前の古淀城は、桂川と宇治川の合流点に挟まれた納所<sup>のうそ</sup>にあった。だが、淀藩の立藩で南へ500m移動し、現在の位置へと移設された。江戸時代以降は、山城国唯一の大家の居城となった。淀城跡公園では、当時の石垣や堀を利用して整備されている。そこから京阪淀駅に戻り、京阪石清水八幡宮駅まで乗車した後、ケーブルカーに乗った。石清水八幡宮参拝後に解散した。帰りに兼好法師が石清水八幡宮と勘違いしていた高良神社を参拝した。当時はどうだったのかわからないが、石清水八幡宮とは全く規模が違い、勘違いすることはあるのだろうかと思った。

伏見・淀・石清水八幡はいずれも、水と関係のある場所であった。例えば、淀であれば木津川、宇治川、桂川の三川合流地帯、伏見であれば水運や酒造が挙げられる。しかし、これらの地域は京都市の中心から少し外れているイメージがあった。また、家からも遠く、私個人で訪れる機会が全くなかった。そのため、実際に町を歩くことができるだけでなく、普通の旅行とは異なり、事前に地域のことを詳細に調べたため、より地域のことを理解することができたと思う。

(まえたに しゅんすけ：学部2回生)

嶋田航大

これから卒業論文に挑むみなさん。地理学は、分かることが増えれば増えるほど分からないことも増える底無し沼です。取り掛かってはじめて気付く無知の知に翻弄されないよう、早くから興味をもって打ち込みましょう。

高田凌太郎

コロナ禍で満足に学習や活動ができない中、少しでもフィールドワークに参加することができ、非常に嬉しかったです。足を動かして学ぶ楽しさも教えて頂きました。本当にありがとうございました。

谷口 歩

入学前から所属したかった地理学・地域環境学専修で学ぶことができ、本当に嬉しかったです。ここで得たものを今後に十分に活かせるようにしたいです。3年間ありがとうございました。

田村莉菜

大学に入ってから地理学を学びはじめましたが、学びはじめたことで、今まで見ていた街の景色が一味違って見えて、学ぶことがとても楽しかったです。とても貴重な経験になりました。ありがとうございました。

仲原太亮

地理学の実習を通して、聞き取り調査をはじめとしたフィールドワークを経験することができ、有意義な時間を過ごしました。関わってくださったすべての方に感謝申し上げます。

西村莉乃

大学に入ってから本格的に地理学を学び、授業、巡検等を通してたくさんの経験をさせていただきました。とても有意義な時間を過ごせました。ありがとうございました。

福田彩伽

この専修では、フィールドワーク等を通して実際に現地に足を運び、自分の目で見ることの大切さを学びました。これからも、自分の目で見て確かめることを大切にしていきたいです。

藤井 純

地理学に出会い、人生にたくさんの彩りを加えることができました。地理学教室で出来た縁は一生の喜びです。皆様の人生が幸多きものであることを願っております。



伏見・大倉酒造前



伏見港公園



## 松川立樹

なかなか思うように活動できないことも多かったですが、たくさん思い出ができました。これからもみなさんと集まれることがあればと思います。3年間ありがとうございました。

## 宮村多門

この専修で学んだことで、身近な土地や環境について目を向けるだけでなく、現存する地形や建造物の尊さもまた学ぶきっかけとなりました。地理に強くなることは、今後社会人になる時に何らかの形で活かしていけると思いますし、非常に有意義な時間を過ごさせていただきました。

## 村上大成

この専修で様々なことを学び、地理学の知見を深めることができました。また、専修で出会った仲間と過ごした時間はとても充実したものでした。ありがとうございました。

## 村上千絵

仙台行きたかったし和歌山でも1泊したかったです！でも、コロナでリモート授業が増えるなか、ほとんど対面でみんなと一緒に授業を受けることができ、めちゃくちゃ楽しい3年間でした！ありがとうございました！

## 村田秀人

仙台に現地調査へ行けなかったのは非常に残念でしたが、同級生や先生方などたくさんの方々に恵まれ、充実した時間を過ごせました。学ぶことだらけで大変でしたが、地理学と出会えて本当に良かったです。ありがとうございました。

## 米元佳那

素敵な人たちに恵まれ、楽しくてとても充実したあつという間の3年間でした。地理学での学びと経験はかけがえのないものです。ありがとうございました。

## ■ □ 実習調査報告 □ ■

# 島根県出雲市での実習調査

吉岡 加帆

2022年度の実習調査は、10月4日～8日に島根県出雲市を対象地域として、土屋先生、松井先生、ティーチングアシスタントの高田協平さんの指導の下で行われました。大学院生M1の3名を含めて、20名の参加でした。

当初は松江市で実習調査を行う予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響によって困難となったことで、急遽、出雲市で実施することになりました。

春学期は現地で聞き取り調査やアンケート調査を実施するため、各班まずは情報収集に取りかかりました。そして、その情報をもとに現地で何を調査するのか、どのようなアンケート項目にするのか等を考えていきました。夏休み中に資料作成を終え、各班は調査先に協力を依頼しました。各班の研究テーマは、「出雲市の自然環境の特徴と水害対策の実態」、「出雲市における歴史・文化の継承」、「出雲市の地域公共交通と来訪手段の実態」、「出雲市大社町の神門通りにおける観光まちづくり」の4つでした。

私たちの班は「出雲市における歴史・文化の継承」をテーマとし、宍道湖に注ぐ斐伊川の左岸、出雲市平田町（雲州平田）の木綿街道を中心に調査しました。準備として、先行研究をもとに木綿街道の景観調査表と地図を作成したり、聞き取り先を決定して質問内容を考えたりしました。他にもインターネットや文献を用いて調査地に関する情報を事前に調べることも行いました。実際に学生主体で現地調査を行うことは初めてであったため、調査を何事もなく終わられるか不安がつかまいました。しかし、聞き取り先に予め質問項目を送信していたことや、必要資料の作成が調査日までに完了していたおかげで、スムーズに実施することができました。

木綿街道の現地調査では、景観調査と聞き取り調査を行いました。景観調査では、現地の人

に家の造りや道路の付け替え工事のことを教えていただきました。そして、聞き取り調査では木綿街道振興会とNIPPONIA出雲平田木綿街道、持田醤油店、酒持田本店を訪れました。木綿街道振興会の方からは、木綿街道で活動を始めた経緯や江戸期の街並みを保存するための活動内容など昔のことから現在のことまでお話を伺いました。酒持田本店と持田醤油店では歴史的建造物のことや川が生活と結びついていた場所であったことなどのお話を聞き、NIPPONIAでは酒蔵の再利用の様子を見学しました。また、出雲神楽についての聞き取りや出雲市役所の方へアンケートを依頼し、出雲大社や出雲神楽に対する意識調査も実施しました。

2020年度と2021年度はコロナ禍のため実施することができなかった専修恒例の4泊5日の実習調査でしたが、今年度は3年ぶりに現地調査を行うことができ、貴重な経験ができました。現地調査を行うための資料作成やポイントメント取得、報告書作成を通して学んだことは、卒業論文の作成だけでなく、就職後も役立つことであるため、この学びを今後活かせるよう精進していくつもりです。

(よしおか かほ：本学3年生)



一畑電鉄の雲州平田駅で職員の方から説明を受ける

## 2022年度 実習調査報告書 No.47 目次 『島根県出雲市の地理 (47)』

はしがき	調査日誌
I 地域の概観	編集後記
II 出雲市の自然環境の特徴と水害対策の実態	関西大学史学・地理学会 2022年度大会ポスター発表資料
III 出雲市における歴史・文化の継承	英文目次
IV 出雲市の地域公共交通と来訪手段の実態	関西大学文学部地理学・地域環境学教室発行、2023年
V 出雲市大社町の神門通りにおける観光まちづくり	3月刊、全106頁
各章の要旨	



## 教室だより

この半年、新型コロナのオミクロン株の流行などで第7波、第8波を経験しましたが、秋学期は、250名以上の大講義以外は、原則、対面での授業となりました。比較的少人数の科目が多い専修専門科目ではリモート講義はなかったのですが、共通教教育科目では該当するものが一部でした。専修連絡委員は9月まで土屋教授でしたが、文学部入試委員就任のため、松井幸一准教授に10月から交代しました。

### ■卒論中間発表会

9月29日(木)10時から18時まで図書館ワークショップエリアで実施しました。発表者卒業論文を提出予定の23名でした。

### ■秋の日帰り巡検

10月2日(日)に秋の日帰り巡検が開催されました。「伏見・淀・石清水八幡一三川合流地域の自然と交通・歴史景観・産業」というテーマで、電車やケーブルを乗り継ぎながら、徒歩でまわりました。京阪墨染駅(10時)～京都疏水・墨染発電所～近鉄伏見駅～近鉄桃山御陵前～御香宮と湧水～大手筋商店街(昼食解散)～月桂冠大倉記念館～中書島～三栖閘門・伏見港公園～京阪中書島駅～京阪淀駅～淀城跡～京阪淀駅～京阪石清水八幡宮駅～ケーブル八幡宮山上駅～石清水八幡宮(18時解散)。OBの上野裕、矢野司郎さんが参加され、現地説明や記念写真でお世話になりました。参加者は計49名。

### ■地理学・地域環境学実習

10月4日(火)～8日(土)に実習調査を鳥根県出雲市で実施しました。3年次生大学院生14名、博士前期課程1年次生3名、ティーチングアシスタント1名(高田協平)、教員2名(土屋・松井)の計19名の参加でした。その調査報告書『鳥根県出雲市の地理』が2023年3月に刊行され、4月に全国の地理学教室や関係者・関係機関に発送の予定です。

### ■ベトナムフィールドワーク研修

2023年2月23日(木)～3月3日(金)に、教員(野間、黒木、松井)引率のもと、17名の学生とOGの齋藤鮎子さんが参加して、ベト

ナム国家大学ハノイ校やハロン湾などで3年ぶりに実施されました。

### ■第4回千里地理学会大会・卒論セミナー

12月10日(土)第1学舎E602会議室で、13時から14時まで現3年生を対象に卒論セミナーを開催しました。担当は野間教授でした。そのあと15時から18時まで、同じ教室で、第4回千里地理学会大会を開催しました。

発表題目は以下の通りです。大学院生(楊珺屹)「出雲市実習調査中間報告」、廣田琢也(京都鉄道博物館総務企画課・主任調査係)「鉄道博物館の役割と鉄道文化」、松井幸一(関西大学・准教授)「ヨーロッパ在外研究を終えて」、栗本史雄(産業総合研究所名誉リサーチャー、本学非常勤講師)「地質地盤情報(ボーリングデータ)の活用と法整備-国民の安全・安心のために-」。今回も懇親会は中止となりました。

### ■集中講義の実際

2023年1月26日(木)～30日(月)に大学院博士前期課程向けの「自然地理学特別研究」に村山良之先生(山形大学名誉教授)にご出講いただきました。

### ■教員の国外出張(2022年10月～3月)

野間晴雄:ベトナム 2022年11月25日～30日(ベトナム地理学会第15回大会参加,記念スピーチ),ベトナム 2023年2月23日～3月3日(フィールドワーク研修引率)。

黒木貴一:ベトナム 2023年2月23日～3月1日(フィールドワーク研修引率)。

松井幸一:ベトナム 2023年2月26日～3月3日(フィールドワーク研修引率・科研調査)。

### ■2023年3月の卒業生・修了生・学位取得者

本年度の卒論提出者は23名、大学院博士前期課程の修了者は3名です。全員が卒業予定です。卒論・修論題目は秋号に掲載します。2023年2月8日に実施した口頭試問の結果、米元佳那さんの「ウダの民俗植物学と三田うどの生産一地域における野生・栽培・調理加工の技術複合」が最優秀論文となり、卒業式のときに学部長表彰をうけます。

米本千夏  
様々な経験をさせてくださった先生方や素晴らしい仲間に出会うことができました。3年間コロナの影響を受けましたが、充実した毎日を送ることができました。ありがとうございました。

### ＜大学院生＞

カザンツルジ フルブルジ  
修士に入学から3年間は、本当に色々お世話になりました。先生方、学生、院生の皆さんと地理学を学べたことは貴重な体験となりました。ありがとうございました。

### ■ 伊夢

院の生活はあっという間でしたが、たくさんの経験をさせてくださいました。この貴重な2年間を支えてくれた先生方、喜怒哀楽を共にした院生の仲間たちに感謝しています。地理学での学び・巡検は一生の財産です。関大地理学教室の更なる発展を願っております。

### ■ 高田協平

大学院での2年間は先生方、大学院の仲間たち、学部の後輩たちなど多くの人に恵まれ、充実したものになりました。本当にありがとうございました。社会人ではこの経験を活かし、地理で社会貢献できる人を目指します。

## ——野間晴雄先生退職記念講演・パーティーの日程変更(重要)——

前号で記念パーティーの日程を2024年3月9日(土)と予告しておりましたが、この日は大安吉日のため会場がすでに結婚式等で押さえられており、以下のように変更になりました。

詳細は後日、専修のウェブサイトにてお知らせします。

日時:2024年3月2日(土)

場所:大阪ガーデンパレス(大阪市淀川区西宮原1-3-35,新大阪駅より送迎バスまたは徒歩約15分)

記念講演 13時～14時30分

記念パーティー 15時30分～18時

パーティー会費 1万5千円(皆様から寄稿いただいた『退職記念エッセイ集』を配布予定)

## 随想 地質地盤情報（ボーリングデータ）の活用と法整備 —国民の安全・安心のために—

栗本 史雄

共通教養科目の「自然地理学を学ぶ」と「地震と火山のメカニズムと防災」を担当しています。この3年間はコロナ感染拡大のためオンデマンド授業でしたので、キャンパスで講義を行う機会がありませんでした。この度、千里地理学会で講演（2022年12月10日）の機会を頂戴しましたので、その概要を報告します。

本題に入る前に簡単に自己紹介をいたします。私の専門分野は地質学で、研究テーマは野外調査をもとに岩石や化石のデータを集めて地質図を作成し、地質の成り立ちや大地の形成過程を明らかにすることです。野外調査の観察や記載などのオリジナルデータが最も重要で研究の基礎となります。「千里地理通信」を拝見すると、どの報告も研究の目的や方法が明確で実地調査に基づいた成果が述べられていますので、地質と共通した研究の姿勢を感じています。

授業では自然科学の立場から地形、地質、地震、火山、気象、自然災害、資源、エネルギー、環境などの自然の営みと人間生活との関係を理解することを課題としています。私たちは自然とのかかわりなしに生きていくことができません。自然環境の形成と変遷、自然と人との関係を知る契機になればという思いで授業を行っています。

さて講演では地表面より下の地質地盤情報にかかわる問題を取り上げました。私たちは地面の上で生活しており直接地下を見ることはできません。地下は様々な物質で構成されていると想像するかもしれませんが、実際には様々な種類や年代の地層が複雑に重なっています。インフラ整備、構造物の建築計画や設計、防災計画などを進めるには、ボーリングデータに代表される地下の地質地盤情報は必須です。

ボーリングデータを例にとると、インフラ整備や建設の際に膨大なデータが取得されていますが、その状況にはいくつかの課題があります。例えばデータのアーカイブが不十分であること、データを管理登録する仕組みが不十分であること、データを提供する機関やシステムが未整備のためデータの閲覧や利用がしづらいことが挙げられます。さらに取得されたデータが管理不十分のため散逸したり破棄されるというリスクもあります。現状では地質地盤情報を整備し共有化し、データを活用する仕組みが不十分であると言わざるを得ません。

これらの課題を解決し地質地盤情報の整備と共有化を推進するため2016年4月に「地質地盤情報の活用と法整備を考える会（<https://www.geo-houseibi.jp/>）」を設立しました。本会の基本的な考え方は、地質地盤情報（ボーリングデータ）が私たちの生活にとって欠くことのできない基盤情報であり国民の共有財産であるということです。この考え方に基づいた活動を通じて、地質地

盤情報の整備を進めその重要性和活用方法を明確にし、データの共有化と社会システムの構築を目指しています。目標達成により防災対策、ハザードマップの精度向上、建築工事の安全評価、立地や宅地の地質地盤評価などに効果をあげることができ、国民の安全・安心に役立つと考えています。

もう一つ重要な点は、地質地盤情報の活用を促進するため法整備を目標に掲げていることです。構造物、宅地、災害対策、資源、地質、学術研究などで得た地質地盤に関するデータを対象とする法律があれば、責任のある組織体制の下でデータの収集・整備・活用を効率的に進めることができると考えています。これにより公的な情報は言うに及ばず民間データも含めたデータベースの作成と活用を一段と推進できることが期待されます。なお国土の情報を取り扱った法律として海洋基本法や地理空間情報活用推進基本法などがありますので、法律間の連携と相互補完が必要です。

質疑応答では、データに加えてボーリングコアなどの実物試料アーカイブに関する質問があり、データ検証のためには実物試料が重要であり学会などでもアーカイブのシステム構築の議論が進んでいることを紹介しました。公開データを基にした研究開発による3次元地下構造解明についての質疑では、より多くのデータのアーカイブとそれを活用した詳細な解析によりこれまでは認識できなかった地下構造の解明に役立つことを述べました。また社会変革と経済効果をもたらす分野協働に関する課題については、一例として不動産分野における地質地盤情報利用の可能性を述べました。いずれの議論も生活に関わる地質地盤情報の重要課題であり、社会的課題の解決や政策提言に繋げるためには広範な分野協働が必須であることを改めて認識しました。

講演ではここ数年間の動きとして、国土交通省の「地下空間の利活用に関する安全技術の確立に関する小委員会」答申（2017年9月）および国土地盤情報センター設立（2018年4月）について紹介しましたが、ボーリングデータを含むすべての地質地盤情報のアーカイブとその活用については社会の仕組みをさらに充実させていく必要があります。国土地盤情報センターの動向を見つづ、今後も「地質地盤情報の活用と法整備を考える会」の活動を進めていきたいと思ひます。

（くりもと ちかお：本学非常勤講師、産業技術総合研究所名誉リサーチャー）

千里地理通信 第88号

2023年3月19日 発行 (250部)

関西大学地理学・地域環境学教室  
関大地理同窓会

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35

関西大学文学部地理学・地域環境学教室内  
編集担当：野間晴雄、張然

TEL：06-6368-1121（内線4890：大学院生室）

e-mail：kandaichiri@gmail.com

<http://www2.kansai-u.ac.jp/kugeoenv/>

郵便振替：大阪 00970-4-81149